

単元名 情報社会を生きる ー 実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう 配当時間 3時間

単元の目標 (1) 実用的な文章の資料ごとに、情報の発信者・発信時・発信目的を確認することができる。
(2) 事実や事例の選び方、取り上げ方や語句の選び方に着目して文章を読み、書き手の思惑や意図について考えることができる。観点ごとに情報を整理し、着眼的を参考に情報の客観性や信頼性を確認しながら表にまとめることができる。
(3) 積極的に情報の信頼性の確かめ方を使って読み、学習したことを踏まえて実生活への生かし方を考えようとする。

標準的な展開例

12210113_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 実用的な文章を読み、生活の中でどう生かしていけばよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の見通しをもつ。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考えよう。 ○ 社会生活の中で触れたことのある実用的な文章に、どのようなものがあつたか振り返る。 ○ 「やってみよう」①に取り組み、大人用と子供用のパンフレットの違いを見つける。 ○ 「やってみよう」②に取り組み、分かりやすく説明するための工夫を考える。 ○ 「やってみよう」③に取り組み、確認すべき情報について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リード文や、「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。 ・ 新聞広告やちらし、取扱説明書、学校のお知らせなど、実例を提示しながら、具体的に考えさせる。 【評】 実用的な文章を探す活動を通して、「主体的に学びに取り組む態度を評価する。」 ・ 3～4人グループで、大人用と子供用のパンフレットを読み比べ、違いを書き出させる。 ・ グループごとに表にまとめ、全体に発表させる。 ・ 「漢字」、「フォント」、「語尾」、「情報」、「レイアウト」、「色使い」など観点ごとに違いを表にまとめさせるとよい。 ・ 子供用のパンフレットでは、どんな工夫がされているかも話し合わせる。 ・ ペアで行う。 ・ 木村さん役とみどりさん役を交代して行う。みどりさん役は、分からないことを一つ一つ質問の形にして木村さんに聞き、木村さん役は、小学3年生が納得できるように言葉で説明する。 ・ 活動前に、傍線部の中で生徒が分からないことを、インターネットなどを使って調べさせるとよい。 ・ 生徒たちの活動を観察し、適切なペアを指名して、全体の前でやり取りを発表させる。 【評】 分かりやすく説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 木村さんが確認すべき情報に傍線を引き、なぜ確認すべきなのか理由も考えさせる。 ・ ペアで木村さん役と家族役に分かれ、傍線を引いた情報について話し合わせる。 ・ 説明する相手と目的を踏まえて説明させる。 ・ 生徒が木村さん役、教師が家族役として活動してもよい。 【評】 確認すべき情報を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 範読を聞きながら、読みづらい漢字や意味の分からない専門用語を挙げさせておく。 ・ 意味の分からなかった語句や用語を辞書で調べさせる。 ・ 記事の特徴について、観点ごとに表にまとめさせる。 【評】 観点ごとに特徴をまとめる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
<p>2 二つの報道文を読み、それぞれの特徴についてまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 報道文を比較して、それぞれの特徴についてまとめよう ○ 教科書 (p. 64～p. 67) の二つの記事の範読を聞き、分からない漢字や語句を調べ、内容をおおまかにつかむ。 ○ 二つの記事の特徴についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 見出し ・ リード文 ・ 本文 ・ 写真 	
<p>3 二つの報道文を読み比べ、その特徴や効果を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 二つの報道文を読み比べ、その特徴や効果を評価しよう ○ 二つの記事の特徴、効果などについて、根拠を明確にして、気付いたことを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4～5人グループになり、表に書き出した内容

○学習を振り返る。

を共有し、共通点や違いに着目して、気付いたことや考えたことを伝え合わせる。
【評】特徴を話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
・実用的な文章を読むときや書くときのポイントには、どのようなものがあったかを挙げさせる。
・報道文には発信者の意図が反映されていることを踏まえて、自分が今後、報道文を読む際に意識したいと思うことを伝え合わせる。
【評】学習を振り返る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

身の回りには、広告、商品などの説明資料、取扱説明書、パンフレット、行政機関からのお知らせなど、様々な種類の実用的な文章がある。情報を伝えるための工夫や相手意識を理解し、実用的な文章を生活の中でどう生かしていけばよいかを考えさせたい。

新聞記事の内容は、大きく分けて「報道」と「論説」がある。「報道」自体には、直接に意見・主張は書かれていない。ただし、「報道」は事実を取捨選択したり表現を選択したりしながら書かれているために、書き手のものの見方や考え方が間接的に反映されている。一方、「論説」は、明確に書き手の意図・意見・主張が提示される。同じテーマに関する二つの記事を比較して読むことで、共通点や相違点が明確になってくる。折りに触れて、同じ出来事を扱った記事を比べて読む場面を設定し、常に批評の目をもって文章を読む練習をしておくことも大切である。